PENTAX®

ESPIO 628
QUARTZ DATE

使用説明書





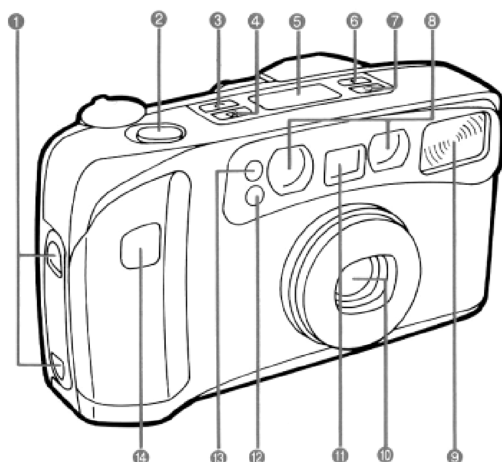
このたびは、ペンタックスESPIO 628（エスピオ　628）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ　628」は28ミリから60ミリまでの2倍ズームを備え、フィルム途中でのパノラマ／標準撮影の切り替え、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載したコンパクトカメラです。
また、他人に撮影を頼むとき、お願いモードを使えば失敗なく撮ることができます。
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

● 説明文中の ■ 内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
● 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異る場合があります。

記号について

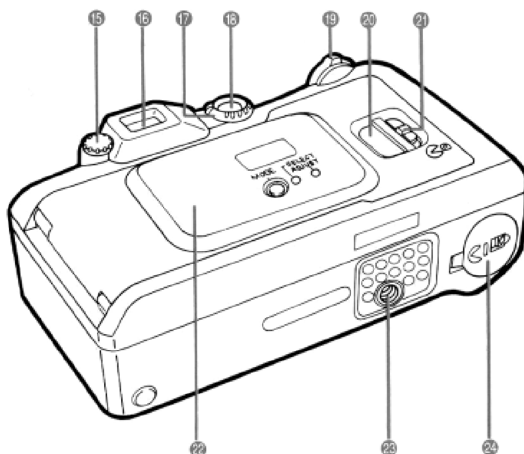
操作の方向	←
自動的に動きます	↔
注目してください	
点灯します	
点滅します	
正しい	○
間違い	×

各部の名称



❶ストラップ通し［7 ページ］
❷シャッターボタン［19 ページ］
❸セルフ／リモコンボタン［25 ページ］
❹遠景／お願いボタン［25 ページ］
❺表示パネル［50 ページ］
❻ストロボ／バルブボタン［24 ページ］
❼赤目軽減ボタン［24 ページ］
❽測距窓
❾ストロボ発光部
❿レンズ
⓫ファインダー窓
⓬セルフタイマーランプ［30 ページ］
⓭受光窓
⓮リモコン受光窓［33 ページ］

各部の名称（背面）



⓯視度調整ダイヤル［17 ページ］
⓰ファインダー接眼窓
⓱パノラマ切り替えスイッチ［37 ページ］
⓲電源スイッチ［8 ページ］
⓳ズームレバー［10 ページ］
⓴フィルム情報窓
㉑裏ぶた開放レバー［12 ページ］
㉒裏ぶた［12 ページ］
㉓三脚ネジ穴
㉔電池ぶた［44 ページ］

注意事項

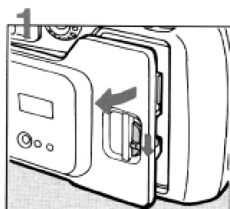
- カメラ内部には、高電圧部があります。危険ですから決して分解しないでください。
- 強い振動やショックを与えないでください。
- ズームレンズに無理な力を加えないでください。
- 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。無理に開けないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを髪や手でふさがないでください。
- 高温多湿な所に保管したり、長時間放置しないでください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラに入ると故障の原因になります。

電池について

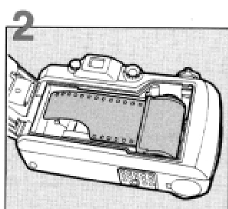
- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、＋－の向きに注意して正しく入れてください。
- 電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火の恐れがあります。
- 旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておくと安心です。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量不足になることがありますが、常温に戻れば使用できます。

目次

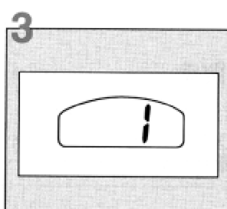
使い方は簡単です。［通常の撮影手順］



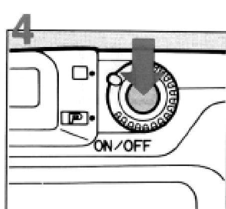
裏ぶたを開けます。
［12 ページ］



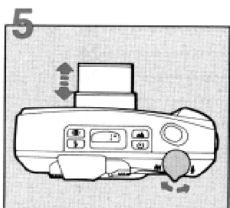
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
［13 ページ］



自動的に1コマ目まで巻き上がります。
［13 ページ］



電源スイッチを押して電源をＯＮにします。
［8 ページ］



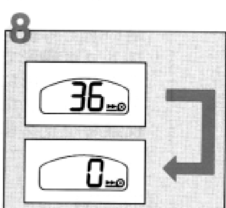
ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
［10 ページ］



写したいものにフォーカスフレームを合わせます。［18 ページ］

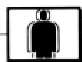


シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります［19 ページ］



フィルムが終わると自動的に巻き戻します。
［22 ページ］

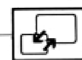
こんな写真を撮るには？



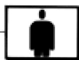
ピント関係



ストロボ関係



ズーミング関係



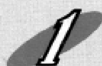
人物撮影関係



風景撮影関係

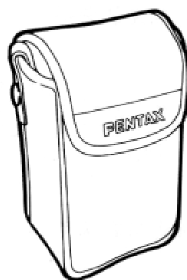


その他



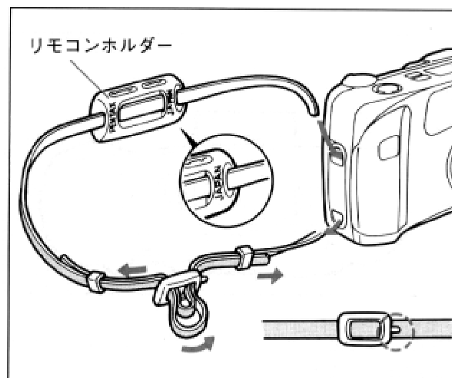
ソフトケース

撮影前の準備をしましょう



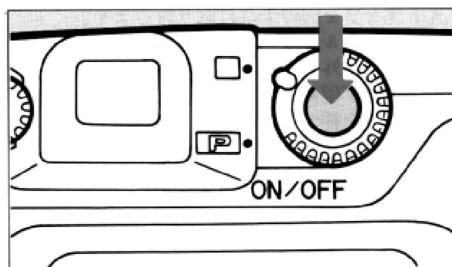
ケースに入れるときは、電源をＯＦＦにしてください。[電源スイッチについては、8ページをご覧ください。]

2 ストラップ



ストラップを図のように取り付けます。
リモコンホルダーの取り付けは、リモコンをホルダーから外してから行なってください。
ストラップ留め具の突起はクォーツデートの修正ボタンを押すときや電池ぶたを開けるときにご利用ください。

3 電源スイッチと電池の確認をしましょう

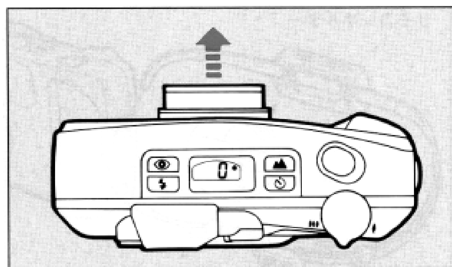


電源スイッチ

スイッチを押すと電源が入り[電源ON]、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。
もう一度押すと電源が切れます[電源OFF]。使用しないときは、必ずOFFにしてください。

3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本を使用します。カメラ本体とデート機構に共用しますので、電池消耗時の交換以外は、電池を抜かないでください。

● **電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。**

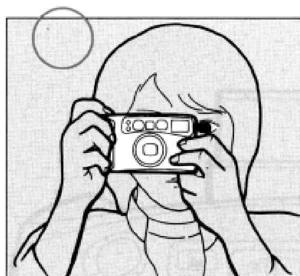
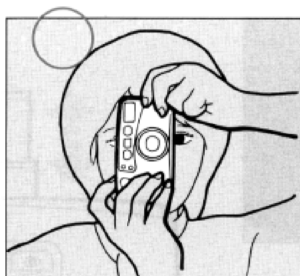
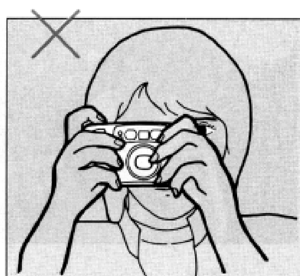


電池の確認[チェック]

電源をONにしたとき、レンズが少し前に出れば撮影できます。
[表示パネルに ▭ マークが出ているときは、43ページをご覧ください。]

※電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。
この場合、約60分以内に電源をONにすれば電源OFF直前の設定に自動復帰します。

4 カメラの構え方

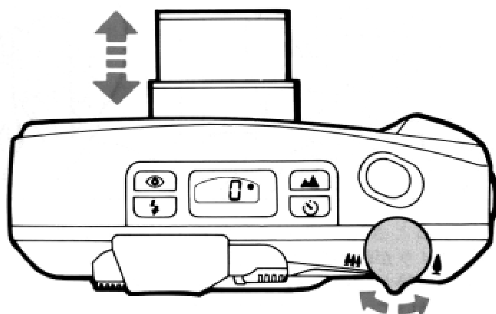




撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。［強く押すとカメラが動いて、ぶれやすくなります。］
木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。
カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。

- ズームレンズは、ズーミングによって前後に移動しますから持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさがないでください。

5 28～60mm のズーミング



ズームレバーを ▲ 側に回すと、遠くのものを大きく写せる60mm側へ、▲▲▲ 側に回すと広い範囲を写せる２８mm側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの構図になったところで止めて撮影してください。

フィルムを入れて撮影しましょう

フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから、入れましょう。

1 フィルム感度について

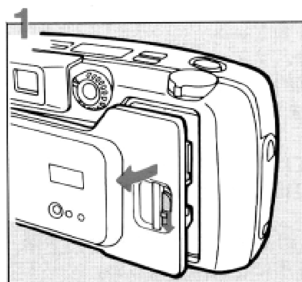
フィルム感度自動セット

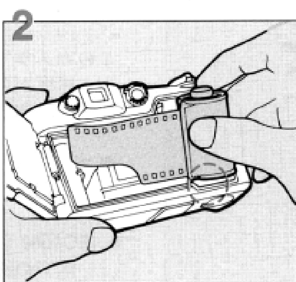
このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。
[ISO25〜3200までのフィルムが使えます。]

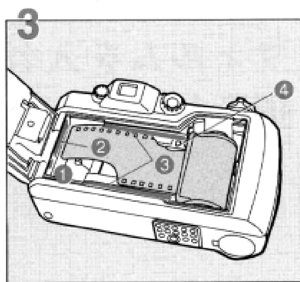
※フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

- **ISO1000以上の高感度フィルムは室内や暗い所での撮影用にご利用ください。**
- **ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。**

2 フィルムを入れましょう [電源をOFFにします]





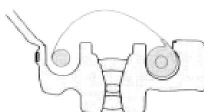


1. 裏ぶたを開ける
図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。

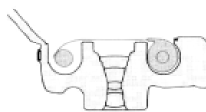
2. フィルムパトローネを入れる
パトローネ下側を先に入れると簡単に入ります。

3. フィルムの先端を合わせます
フィルムを少し引き出して❶のローラーの上に乗せ、❷のフィルム先端マークに合わせます。

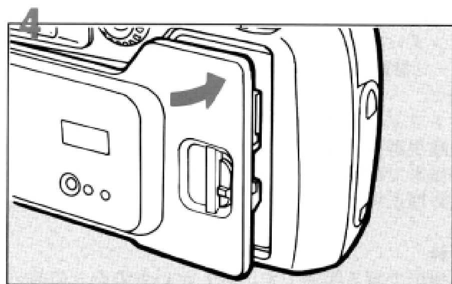
- **フィルムが❸のガイドレールの間に入っていることを必ず確認してください。**
- **フィルム検知部❹にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。**



×フィルムのたるみあり



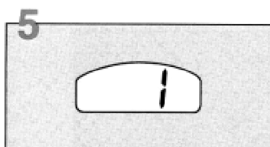
○フィルムのたるみなし



4. **裏ぶたを閉じる**

裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。

※フィルムが入っていなくても、裏ぶたを閉じるとモーターは約1～2秒間回ります。



5. **フィルム巻き上げの確認**

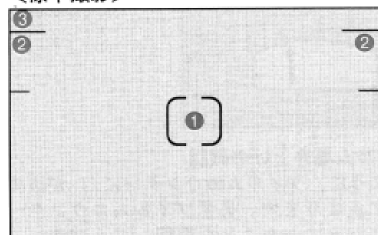
上図のように、フィルムカウンターに 1 が出て自動的に止まります。必ずフィルムカウンターが 1 になっていることを確認してください。1 が出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。フィルムを入れ直してください。フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに E が点滅して知らせます。

※フィルムカウンターは、電源をOFFにしても表示されます。

←左図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。
- **フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。**
- **フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。**

3 ファインダー内表示と撮影距離 [電源をONにします]

<標準撮影>



<パノラマ撮影>

❸ ❷ ❶ ❷

ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整[17ページ参照]を先に行なってください。

標準撮影

❶オートフォーカスフレーム

❷近距離視野補正枠

標準撮影で撮影する距離が0.5～1m付近では、近距離視野補正枠より下に写したいものを入れてください。

❸視野枠

標準撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

パノラマ撮影

❶オートフォーカスフレーム

❷パノラマ近距離視野補正枠

パノラマ撮影で、撮影する距離が0.5～1m付近では、パノラマ近距離視野補正枠より下に写したいものを入れてください。

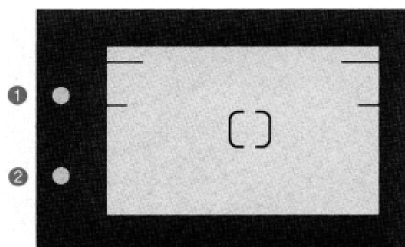
❸視野枠

パノラマ撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

撮影距離[標準／パノラマ]

- 撮影は0.5m～∞[無限遠]の範囲で可能です。
- 0.5mより近い距離ではピントが合いません。

4 ランプ表示



シャッターボタンを少し押して図の❶❷のランプ表示を確認して撮影しましょう。

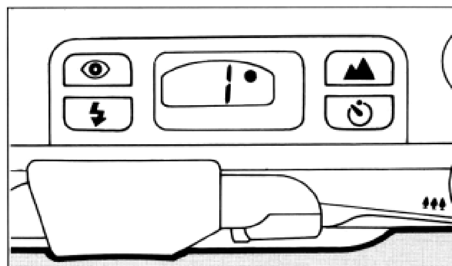
❶緑ランプ　点灯[撮影可能・フォーカスロック]
　　　　　　点滅[近距離警告]

❷赤ランプ　点灯[ストロボ発光]
　　　　　　点滅[ストロボ充電中]

※緑ランプ点滅は、撮影距離が近すぎることを知らせます。撮影するときは、必ず緑ランプ点灯を確認してください。

※撮影距離が極端に近いときは、緑ランプが点灯することがあります。

5 通常の撮影モード



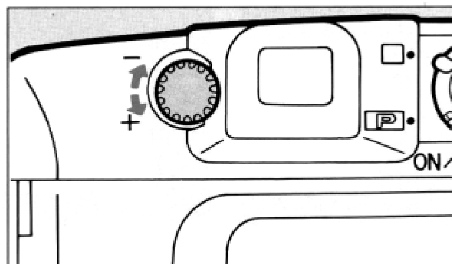
電源をONにすると、通常の撮影モードになり、上図のような表示が表れます。
この撮影モードでは被写体が暗い所で自動的にストロボが発光します。

● 他の表示のときは、電源をOFFにしてからONにすると通常の撮影モードに戻ります。



※ストロボ自動発光時のシャッタースピードは約1/30［28mm側］～約1/60秒［60mm側］です。［ISO100フィルム使用時］

6 視度調整

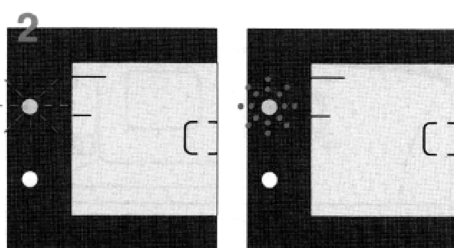


カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整ダイヤルを回して、ファインダー内中央のオートフォーカスフレームの線が最もはっきり見える位置に調節します。

●視度調整は、ご使用前に必ず行なってください。

7 撮影しましょう［撮影距離は0.5m〜∞の範囲です］





1. 構図を決める

ズームレバーを使って構図を決め、画面中央の〔〕オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。

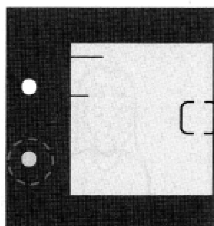
2. ランプ表示の確認

シャッターボタンを少し押し、ピントが合うとファインダー内左側の緑ランプ が点灯します。

0.5mより近い距離では緑ランプが点滅して警告します。シャッターボタンを押し直してランプが点灯する位置まで離れてください。

●赤ランプ が点灯した場合は、ストロボ撮影になります。「ストロボ撮影できる距離範囲」を確認してから撮影してください。［19ページ参照］





ストロボ自動発光

被写体が暗いときには、ストロボが自動発光します。赤ランプの点灯は、ストロボが発光することを知らせます。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中でシャッターが切れませんので、赤ランプの点灯を確認してから撮影してください。「エスピオ　628」には、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは24ページおよび45ページをご覧ください。

3. **撮影**

さらにシャッターボタンを押すと撮影できます。［撮影後フィルムは1枚巻かれます。］

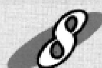
※シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。

※一度ピントを合わせてから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

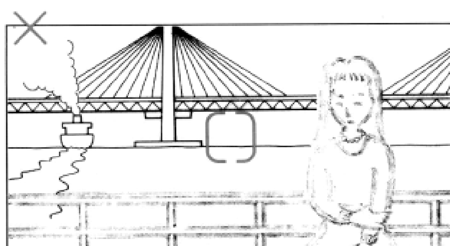
※ズーミング中は、シャッターが切れません。

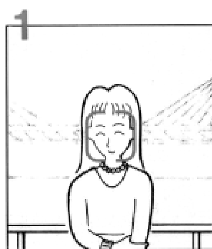
ストロボ撮影できる距離［ネガカラーフィルム使用時］

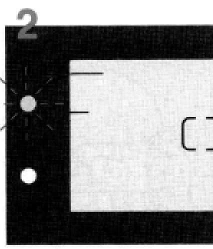
レンズ ＼ ISO	100	200	400
28mm（♣♣♣）	0.5〜3.9m	0.5〜5.6m	0.5〜7.8m
60mm（♣）	0.5〜2.3m	0.5〜3.3m	0.5〜4.7m



フォーカスロック撮影







こんなときは注意しましょう！

このまま撮影すると、図のように人物にはピントが合わず、後ろに合ってしまいます。

ピントを合わせたいものがファインダー中央の〔〕から外れているときは、右の操作説明に従ってフォーカスロック撮影をしましょう。

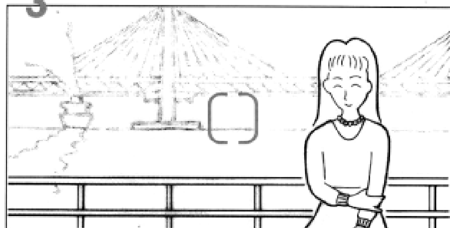
［フォーカスロックとは、撮影前にピントを合わせて、それを一時的に固定することです。］

1. **〔〕オートフォーカスフレームを合わせる**

ピントを合わせたいものに〔〕を合わせます。人物の顔などピントを合わせたいものが小さく見えるときは、胸などに合わせてください。

2. **フォーカスロック［緑ランプ点灯］**

シャッターボタンを少し押すとファインダー内左側の緑ランプ ● が点灯して、ピントと露出が固定されます。



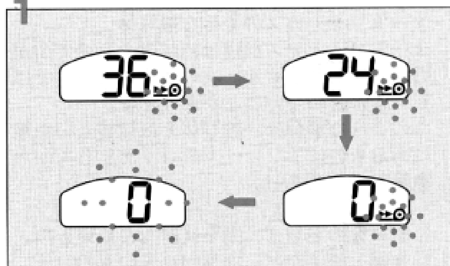
3．構図に合わせて撮影します
シャッターボタンを少し押したまま写したい構図にして、シャッターを切ります。

※フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

オートフォーカスの苦手な被写体
オートフォーカス機構は高精度のものですが万能ではありません。次のような被写体ではピントが合わないことがあります。
このような場合は、被写体とほぼ等しい距離にあるものに「フォーカスロック」してから撮影してください。

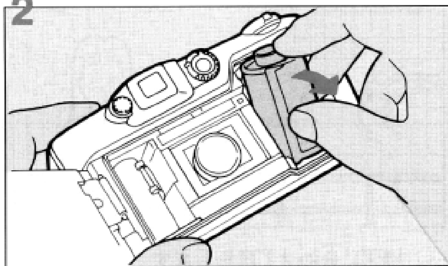
1. 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
2. 金網・格子など、面積が小さいもの。
3. ネオンや蛍光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているもの。
4. ガラスや鏡、車のボディーなど、光沢があって反射するもの。
5. 速いスピードで動いているもの。
6. 噴水・水面・炎・花火など、形のはっきりしないものや霧の中の被写体。

9 フィルムを取り出しましょう［フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう］



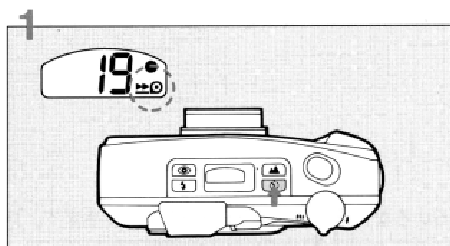
1．フィルムの巻き戻し
フィルムの最後まで撮り終わると、レンズが自動的に収納され、巻き戻しが始まります。
巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように 0 が点滅して知らせます。

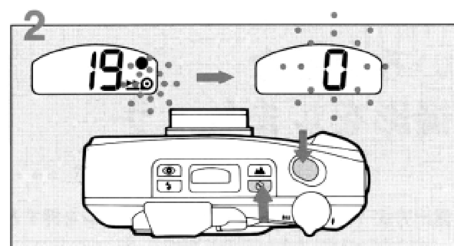
※巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
※巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
※巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、パトローネに巻き込まれます。



2．フィルムの取り出し
裏ぶたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

- フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。





フィルムの途中巻き戻し

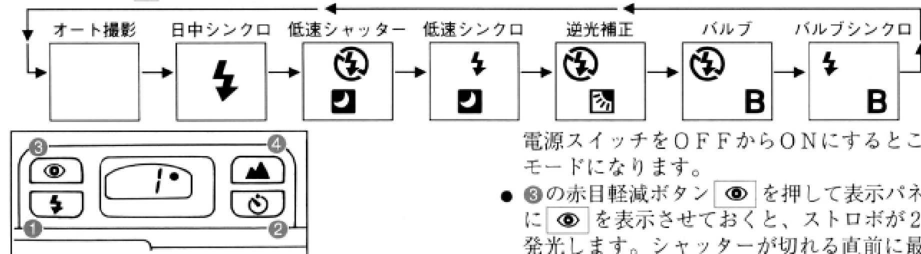
フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

1. 電源をONにして、セルフ／リモコンボタンを3秒以上押し続けると、表示パネルに［ ］マークが現れて、途中巻き戻しモードになります。このときに、［ ］表示が点滅します。

2. セルフ／リモコンボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり［0］が点滅して知らせます。

いろいろな撮影をしましょう

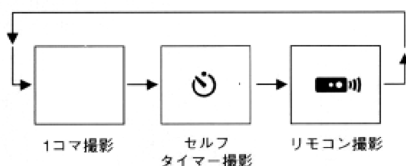
露出方式［❶［ ］ストロボ／バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。］



電源スイッチをＯＦＦからＯＮにするとこのモードになります。

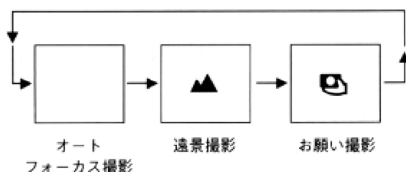
- ❶❷❹のボタンは、１回ずつ押して合わせます。
- 通常の撮影では、図のように「オート撮影で１コマ撮影」に合わせてご使用ください。
- ❸の赤目軽減ボタン［ ］を押して表示パネルに［ ］を表示させておくと、ストロボが２度発光します。シャッターが切れる直前に最初のストロボ発光［小光量］が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。

撮影方式［図の❷ セルフ／リモコンボタンを押すと、「撮影の方式」を選ぶことができます。］

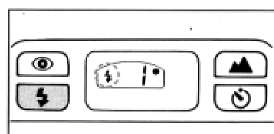


※露出方式、撮影方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に❶、❷のボタンを押すと「オート撮影」および「1コマ撮影」に戻ります。
※❷ セルフ／リモコンボタンを3秒以上押し続けると、途中巻き戻しモードになります。［23ページ参照］

測距方式［図の❹ 遠景／お願いボタンを押すと、「測距の方式」を選ぶことができます。］



日中シンクロ撮影



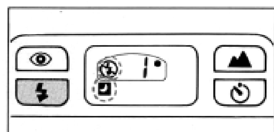
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに 表示を出します。明るい所でも暗い所でもストロボ撮影になります。
逆光などで被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると、陰の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご使用ください。

- シャッターボタンを少し押して、ファインダー内左側の赤ランプ の点灯を確認してから撮影してください。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中です。
- 日中、ストロボを補助光として使用する場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。［19ページ参照］


ストロボなし

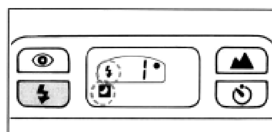

ストロボ使用　日中シンクロ

低速シャッター撮影・低速シンクロ撮影



ストロボOFF
［発光停止］
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに［Ⓢ ◘］表示を出して撮影します。
暗い所でもストロボを発光させないで、約1/4秒までの低速シャッターで撮影できます。ストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。また、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真も楽しめます。

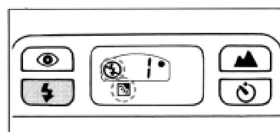
●暗い所ではシャッター速度が遅くなるので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。



低速シンクロ撮影
［ストロボ使用］
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに［⚡ ◘］を表示させると、低速シンクロ撮影になります。
暗い背景で人物撮影をするとき、人物にはストロボ光があたり、背景も遅いシャッタースピードでバランス良く写せます。



逆光補正



背景に明るい空などが多く入るような構図［逆光や窓ぎわなど］で人物撮影のときなど、明るい背景に露出が合うために人物が暗く［露出不足］なることがあります。このようなときに、自然光で露出を補正すると人物も画面全体も明るく写ります。
風景写真など、日中シンクロ撮影ではストロボ光が届かないときなどにご利用ください。
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに［Ⓢ ◪］表示を出します。

●薄暗い場所で逆光補正を使うと、シャッター速度が遅くなりカメラぶれしやすくなるので、三脚をご利用ください。

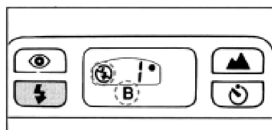


逆光補正なし

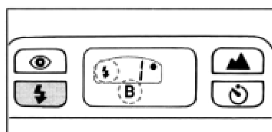


逆光補正

バルブ撮影・バルブシンクロ撮影



バルブ撮影
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに ⊛B 表示を出して撮影します。
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて最長10分までの長時間露出ができます。花火や夜景の撮影にご利用いただけます。
撮影時は、カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。

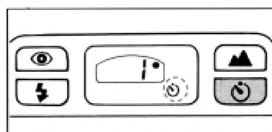


バルブシンクロ撮影
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに ⚡B 表示を出して撮影します。バルブシンクロ撮影ではストロボが使えますので、夜景などを背景にした人物撮影ができます。

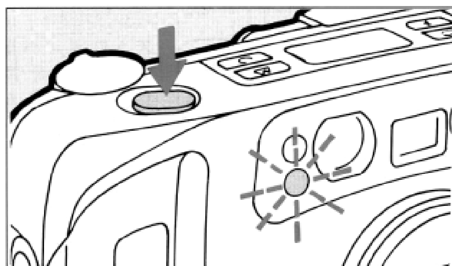


バルブ撮影
ISO100で約3秒間の撮影

セルフタイマー撮影



撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。撮影時は三脚などを使用してください。
セルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに ⏲ 表示を出して撮影します。

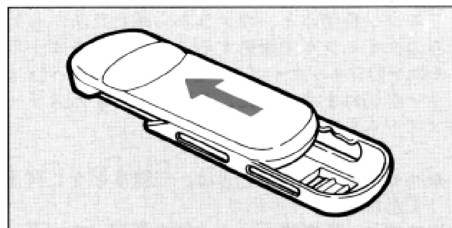


写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れます。
セルフタイマーの作動中は、表示パネルの ⏲ の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

- カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので、ご注意ください。
- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、電源スイッチを押してください。[この場合は電源OFFになりません。]
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了［赤ランプ点灯］を確認してから、セルフタイマーを作動させてください。
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影をした場合、シャッター速度は約1/2秒になります。

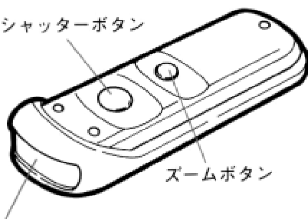
リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。また、リモコンによるステップズームもできます。

※リモコン撮影するときは、三脚などをご利用ください。
※リモコン撮影時もカメラ側の各露出モードとの組み合わせによる撮影ができます。ただし、撮影方式は、「1コマ」撮影だけとなり、「セルフタイマー撮影」は使用できません。
※バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。［最長約10分］

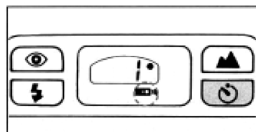


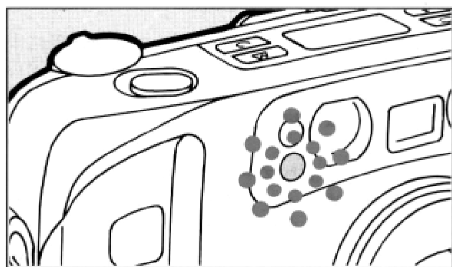
リモコンを外します
図のように、リモコンをリモコンホルダーより矢印方向に引き抜いてください。

リモコン各部名称



カメラのセルフ／リモコンボタンを押して、表示パネルに を出します。

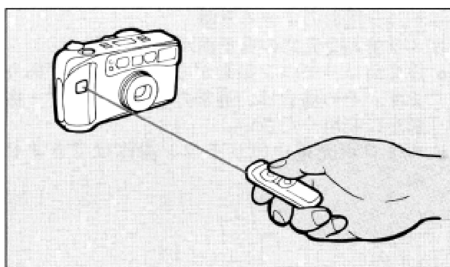




ランプの点滅

撮影モードをリモコン撮影モードにするとカメラ前面のセルフタイマーランプがゆっくり点滅し、リモコン撮影ができることを知らせます。

※このとき、カメラのシャッターボタンを押すと通常の1コマ撮影になります。
※リモコン撮影モードのまま、10分間放置すると、自動的に電源OFFになります。再びご使用になる場合は、電源スイッチを入れ直してください。



撮影

ファインダーで構図を決め、オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。
カメラから離れてリモコン受光窓にリモコン投光部を向け、リモコンのシャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが3秒間早い点滅をした後シャッターが切れます。
※ リモコン撮影時のフォーカスロックはできませんので、リモコンのシャッターボタンを押したときのオートフォーカスフレームに合っているものに、ピントが合います。

リモコン撮影のできる距離

カメラ前面受光窓の真正面から約5m以内

- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。その場合は、通常のセルフタイマー撮影をご利用ください。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。

リモコンによるズーミング

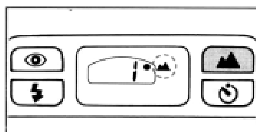
リモコン投光部をカメラのリモコン受光窓に向け、ズームボタンを押すたびに、レンズの焦点距離が28mm→60mm→38mm→28mmとステップズームを繰り返します。

※リモコンによりズーミングを行なうときは、あらかじめファインダーで、60mmまでズーミングしたときのことも考慮して、構図を決めてください。ズームアップしたときに、被写体が画面に入らないなどの失敗を防ぐことができます。

リモコン用電池の寿命

約30,000回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

遠景撮影

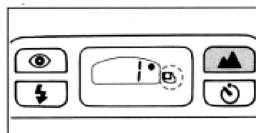


遠い風景やガラス越しの遠景などを撮影するときに、遠景撮影モードにすると、よりシャープな風景写真が撮れます。
遠景／お願いボタンを押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。



※一度撮影をすると遠景撮影は解除されます。
※露出方式がオート撮影ではストロボは発光しません。

お願いモード

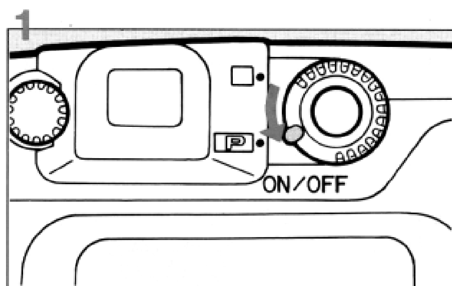


お願いモードではピント位置が2.8mに固定されます。また、焦点距離も広角28mmに固定されますので被写界深度が深くなり、ピンぼけの心配をせずに撮影ができます。
他の人に写真を撮ってもらいたいときや、スナップ撮影あるいは窓越しの近景撮影などにもご利用ください。

1. 遠景／お願いボタンを押して、表示パネルに を表示させます。
2. シャッターボタンを押して撮影をします。

※焦点距離は自動的に28mmに固定されますので、ズームレバーを操作しても焦点距離を変えることはできません。ズームレバーを操作すると表示パネルの が点滅して警告をします。
※晴天の屋外であれば、約1.2mから∞［無限遠］までピントが合いますので、安心して撮影できます。暗い被写体でも、写したいものが約1.6mから13mの範囲にあればピントが合います。
※ストロボ撮影では、ストロボの撮影できる距離範囲内［19ページ参照］で撮影してください。ただし、最短距離は1.6mになります。
ISO 400のフィルムを使用したときの撮影できる距離は5.5mまでとなりますのでご注意ください。
※リモコンのズームボタンを押しても焦点距離を変えることはできません。
※お願いモードの解除は、遠景／お願いボタンをもう一度押してください。

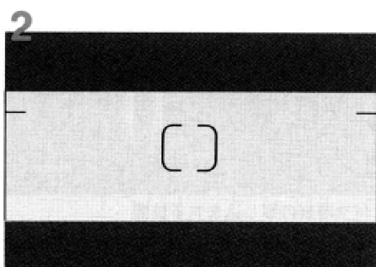
パノラマ撮影



「エスピオ　628」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影では横長[フィルム上で13×36mm]に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

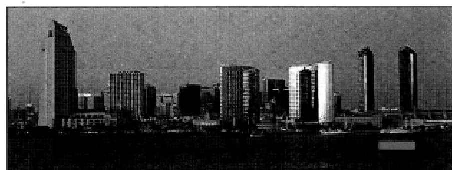
1. **パノラマ撮影に切り替えます**
   パノラマ切り替えスイッチを P に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

※パノラマに切り替えると、ファインダー内がパノラマ用に横長になります。



2. **撮影します**
   パノラマの視野枠内に写したいものを入れて撮影してください。

● **1mより近距離でパノラマ撮影をするときは、標準撮影をするときと同様に、写る範囲が多少下に移動しますので、パノラマ近距離視野補正枠より下に写したいものを入れてください。**



赤線は日付や時刻の写し込まれる位置

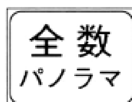
パノラマデートについて
標準撮影と同様にパノラマ撮影でも画面内右下に日付や時刻を写し込むことができます。使い方は標準撮影の場合と同じですので、「デートの使い方」40ページをご覧ください。
標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行われます。

パノラマプリントについて
パノラマモードで撮影されたフィルムの現像／プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム［パトローネ］に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

● パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合 →



● フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合 →

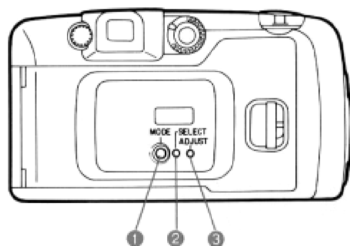


※パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。
※パノラマ／標準混在の場合、お店によっては同時に仕上がらないことがありますので、現像のみを先に仕上げてプリントを依頼するなどの方法がありますので、お店にご相談ください。
※パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。



※パノラマモードで撮影したフィルムを通常サイズのプリントにすると、上下に黒い帯が写し込まれます。
※パノラマプリントされるのはフィルム中央部のおよそ12mm×35mmの範囲ですが、フィルム上に写し込まれる範囲は、これより若干広くなります。またズーミング位置によってフィルム上に写し込まれる範囲は多少違いますが、ファインダーで見える範囲はパノラマプリントされる範囲とほぼ同じになります。
※パノラマプリントはおよそ89×254mm のサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

デートの使い方

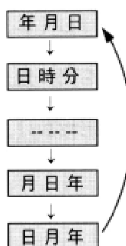


❶ MODE　モード　：切り替えボタン
❷ SELECT　セレクト　：選択ボタン
❸ ADJUST　アジャスト：調整ボタン

「エスピオ　628」クォーツデートは、2019年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、製品出荷時にほぼ正しくセットしてあります。

モードの切り替え

❶の MODE ボタンを爪で押して、希望の表示を出します。



※日付や時刻を写し込みたくない場合は、-- -- -- に合わせます。
※デート表示窓の M は「月」の位置を示しています。
※ SELECT および ADJUST ボタンを押すときは、ストラップ留め具のピンをご使用ください。

日付や時刻の修正

1. ❷のSELECTボタンを押して修正したい数値を点滅させます。

2. ❸のADJUSTボタンは、❷のSELECTボタンで指定した修正したい数値[点滅させた]を変更するときに押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。

3. 修正後は、❷のSELECTボタンを押して、— 写し込み可能マークを表示させます。

※修正中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。

※日付や時刻は、次のように表示されます。
年＝87～19［1987～2019］
月＝1～12　日＝1～31
時＝0～23　分＝00～59

※❷のSELECTボタンで[:]表示を点滅させ、❸のADJUSTボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

デートの写し込みについて

写し込みたい日付や時刻を選んでデート表示窓に出しておけば、シャッターを切るごとに写し込まれます。

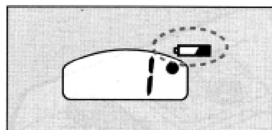
※「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。
※シャッターを切るとデート表示窓の — が点滅し、写し込みが行なわれたことを示します。
※標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行なわれます。

● 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい被写体が来ると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものが来ないようにしましょう。



※ この写真の数字はハメコミ合成です。

電池の消耗警告





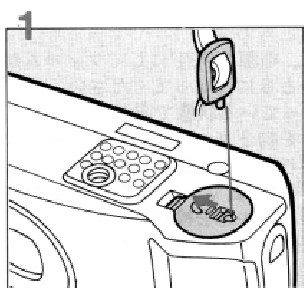
電池が消耗してくると表示パネルに図の[電池マーク]マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。[電池マーク]が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

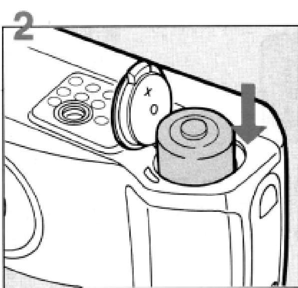
撮影できるフィルム本数［24枚撮り］
通常の撮影モードでストロボの使用率を50%にした場合　約15本
［CR123A電池・当社試験条件による］

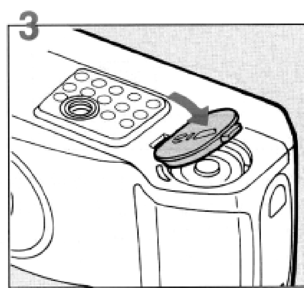
電池を交換するときの注意

1. 電池の交換は、電源をOFFにしてフィルムが入っていないときに行なってください。
2. フィルムが入っている状態で電池を交換すると、フィルムを約2コマ分空送りして撮影枚数が [1] に戻りますが、撮影は続けられます。［フィルムの終わり近くで電池を交換した場合、カメラがフィルムを検知できずに表示パネルに撮影枚数が出ず、[E] が表示されることがあります。フィルムを途中巻き戻し操作で巻き戻してから取り出してください。］
3. 電池は、デート用電源と共用です。交換後は日付および時刻の修正を行ってください。
［修正は41ページをご覧ください。］

電池の交換 [電源をOFFにします]







1. **電池ぶたを開けます**
   ストラップ留め具のピンを利用して電池ぶたのロックを矢印方向に引いて電池ぶたを開けます。
2. **電池を入れます**
   電池ぶたの＋－表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

   使用電池［3Vリチウム電池1本］
   CR123A相当品
3. **電池ぶたを閉めます**
   電池ぶたを矢印方向に押します。
   電池ぶたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

- 電池が正しく入っている場合は、電池ぶたを取り付けたとき、ズームレンズが少し動きます。
- 電池ぶたを開けると、デートが「87年1月1日」にリセットされます。
  ［修正は41ページをご覧ください。］

ストロボ撮影可能距離と赤目現象

ISO100、200、400以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲[ネガカラーフィルム使用時]

レンズ ＼ ISO	25	50	1000	1600	3200
28mm（🌲🌲🌲）	0.5〜2.0m	0.5〜2.8m	0.7*〜13.0m	0.9*〜17.0m	1.3*〜24.0m
60mm（🌲）	0.5〜1.2m	0.5〜1.6m	0.5〜8.0m	0.6*〜10.0m	0.8*〜14.0m

* 高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

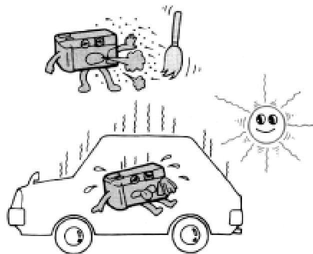
ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意ください。

- 強い振動やショックを与えたり、圧力などを加えないように注意が必要です。オートバイ・車・船などの振動は、直接カメラに伝わらないようクッションなどを入れて保護するようにしてください。
- レンズ、ファインダー窓および測距窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室などを避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- 高温多湿の所に保管したり、長時間放置することは避けてけださい。車の中は高温になることがありますのでご注意ください。
- 寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと[または逆の場合も]、カメラの内外に水滴を生じます。このようなときは、カメラをバッグやビニール袋などに入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから、取り出してください。



- カメラの使用温度範囲は−10℃〜50℃です。
- 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電気接点や各部の接点に電池の液もれや手油などによる汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。汚れやゴミを取り除いても不具合の場合は当社の各サービス窓口で点検を受けてください。

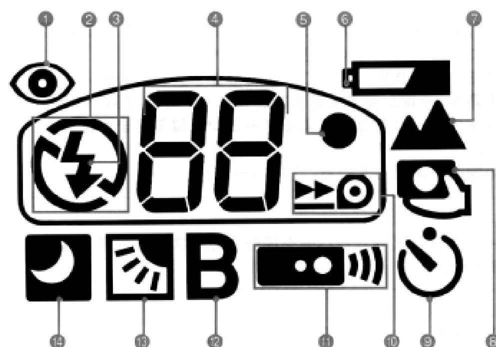
● 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
● このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
もし水滴が付いたときは、すぐに乾いた布できれいに拭いてください。
● ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きにしてカメラを置かないでください。無理な力やショックを与えると故障の原因になります。
● サービスサイズのカラープリント［パノラマプリントを含む］では、画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を残しておくと安全です。
● 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をお勧め致します。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをされるようにしてください。
● 業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。

こんなときは？[詳しくは、各ページをご覧ください]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状１：シャッターが切れない。	原因・対処１： ● 電源スイッチがOFFになっていませんか。スイッチをONにしてください。[8ページ] ● 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[43ページ] ● 表示窓に 0 が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[22ページ]
症状２：写真の出来が良くない。	原因・対処２： ● ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせて撮影してください。[18ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[9ページ]
症状３：ズームレンズが勝手に収納された。 ［電源がひとりでに切れた］	原因・対処３： ● 電源ONのまま放置した場合は、放置後約３分間たつと、自動的にOFFになります。[8ページ] ● リモコン使用時は、放置後約10分間たつと、自動的にOFFになります。[33ページ]

症状	原因・対処
症状 4：リモコンによる操作が出来ない。	原因・対処 4： ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約 5 m です。この範囲内でリモコンを操作してください。[34 ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[34 ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[34 ページ] ● お願いモードでは、リモコンによるズーミングはできません。[36 ページ] ● リモコンの電池が消耗している。[34 ページ]
症状 5：ズーミングができない。	原因・対処 5： ● お願いモードでは、ズームレバーを操作してもズーミングされません。[36 ページ]
症状 6：暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処 6： ● 日中シンクロ撮影になっている。[26 ページ]
症状 7：表示パネルに H や U などの表示がでる。	原因・対処 7： ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。



各部の名称

液晶表示［LCD］について

● 約60°Cの高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
● 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

アフターサービスについて

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。



2. 保証期間中［ご購入後1年間］は保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社各サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。運賃諸掛りについてもお客様にご負担願います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口でお手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行しております。［保証期間中のみ有効］

主な仕様

形式……………………ズームレンズ内蔵フルオート35mm レンズシャッターカメラ［デート付き］
使用フィルム…………35mmDXフィルム専用［135 パトローネ入り］　ISO25～3200 自動感度セット［１ＥＶステップ］　DX以外＝ISO25固定
画面サイズ……………24×36mm［パノラマ撮影時は 13×36mm］
フィルム入れ…………オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ………………自動巻き上げ式
巻き戻し………………フィルム終了時自動巻き戻し式［巻き戻し時間：24 枚撮りフィルムで約 20 秒］巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数………………自動復元順算式、巻き戻しに連動［減算］
外部表示………………表示パネルにLCD液晶表示
レンズ…………………ペンタックス 28～60mmF4.5～8.7 電動ズームレンズ　5群6枚　画角 75°～39.5°
ピント合わせ…………赤外線アクティブオートフォーカス方式、フォーカスロック付き、測距範囲＝0.5m～∞［無限遠］［最大倍率約 1/7.5×］、遠景撮影モード付き［ピントは無限遠に固定］
お願いモード…………ピント 2.8m 固定、焦点距離 28mm 固定
ズーミング……………電動式
シャッター……………プログラムAE電子式シャッター＝約 1/300～1/ 4 秒、バルブ［1/2 秒～10 分、電磁レリーズ式
セルフタイマー………電子式赤ランプ表示、作動時間約 10 秒、作動後の解除可能
ファインダー…………実像式ズームファインダー、視野率 84%、倍率 0.34×［28mm 側］0.62×［60mm 側］、視度調整付き 約−2.5～＋0.5D［ディオプトリー］、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠、パノラマ視野枠、パノラマ近距離視野補正枠、緑ランプ点灯：撮影可能・点滅：近距離警告、赤ランプ点灯：ストロボ発光・点滅：ストロボ充電中

露出……………………プログラム式自動露出
露出連動範囲[ISO100]　オート、日中シンクロ時＝EV9.5～EV17[28mm 側]　EV12～EV17[60mm 側]　低速シャッター撮影時＝EV6.5～EV17[28mm 側]　EV8.0～EV17[60mm 側]

逆光補正………………＋1.5EV補正

露出計スイッチ………シャッターボタン

ストロボ………………ズームオートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート＝低輝度時自動発光、ストロボON＝日中シンクロ／低速シンクロ[1/4 秒まで使用可能]、ストロボOFF＝発光停止、 バルブシンクロ＝1/2 秒～10 分

ストロボ撮影範囲……[ISO100 使用時]広角[28mm]＝0.5m～3.9m、[60mm]＝0.5m～2.3m

ストロボ充電時間……約 5 秒 [当社試験条件による]

リモコン………………赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押しで 3 秒後撮影、28mm−60mm−38mm−28mm のステップズーム可、作動距離＝カメラ前面　5 m 以内

リモコン電源…………リチウム電池[CR1620] 1 個[サービスセンター交換]

リモコン大きさ・重さ…23.5[幅]×68.5[長]×15.0[厚]mm　15 g [ホルダー付き]

電源……………………３Ｖリチウム電池[CR123A相当品] 1 本使用

撮影可能本数…………24 枚撮りフィルム使用時 約15本[ストロボ 50%使用、当社試験条件による]

電池消耗警告…………表示パネルに [電池マーク] が点灯、点滅時シャッターロック

デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[西暦 2019 年まで、閏年は自動修正]、パノラマ時写し込み可能

データ写し込み方法…フィルム背面からの写し込み

データの種類…………①年・月・日　②日・時・分　③-- -- --[データ写し込み無し]
④月・日・年　⑤日・月・年

大きさ・重さ…………125.5[幅]×69.5[高さ]×43.0[厚み]mm　275 g [電池別]

付属品…………………ストラップ、ソフトケース、リモコン

PENTAX® ESPIO 628

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）こんな写真を撮りたいと思ったときに、下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

[⚡] ボタン

[ ] オート
最も一般的なモードです。暗い所や逆光では自動的にストロボが発光します。

[⚡] 日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが発光します。逆光などで人物が暗くなってしまう時に使います。

[ストロボ発光禁止・低速] 低速シャッター
暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

[⚡低速] 低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

[ストロボ発光禁止・逆光] 逆光補正
逆光の人物撮影などで、人物の顔が暗くならないようにできます。

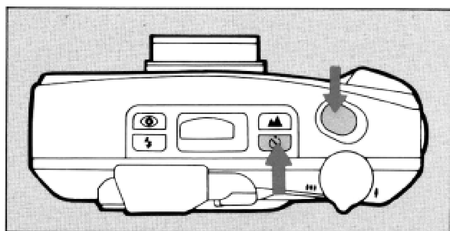
[ストロボ発光禁止 B] バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

[⚡B] バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

[セルフタイマー] ボタン

[セルフタイマー] セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10 秒後にシャッターが切れます。

[リモコン] リモコン
カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。
リモコンのシャッターボタンを押すと 3 秒後にシャッターが切れます。



フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

1. 電源をONにして、セルフ／リモコンボタンを３秒以上押し続けると、表示パネルに [▶▶⊙] マークが表れて、途中巻き戻しモードになります。このときに、[◉] 表示が点滅します。
2. セルフ／リモコンボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり [0] が点滅して知らせます。

日付や時刻の修正

1. [SELECT] ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
2. [ADJUST] ボタンは、[SELECT] ボタンで指定した修正したい数値[点滅させた]を変更するときに押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2〜3秒後からは早送りされます。
3. 修正後は、[SELECT] ボタンを押して、[━] 写し込み可能マークを表示させます。

※ 修正中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。

※ 日付や時刻は、次のように表示されます。
年＝87〜19 [1987〜2019]
月＝1〜12　日＝1〜31
時＝0〜23　分＝00〜59

※ [SELECT] ボタンで [:] 表示を点滅させ、[ADJUST] ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム		〒163-04	東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル（私書箱240号）	☎03(3348)2941(代)
ペンタックスフォーラム・大阪		〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎ 06(271)3960
旭光学	東　京サービスセンター	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地（土橋交差点交番並び）	☎03(3571)5621(代)
〃	札　幌サービスセンター	〒060	札幌市中央区大通西8丁目1番地1号 朝日生命札幌大通ビル	☎011(241)8742(代)
〃	仙　台サービスセンター	〒980	仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都会館	☎022(261)5681(代)
〃	新　潟サービスセンター	〒951	新潟市本町通七番町1153番地 新潟本町通ビル	☎025(224)8391(代)
〃	横　浜サービスセンター	〒231	横浜市中区不老町1丁目6番9号 横浜エクセレントⅤビル	☎045(681)8771(代)
〃	静　岡サービスセンター	〒420	静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル	☎054(255)6308(代)
〃	名古屋サービスセンター	〒461	名古屋市東区泉1丁目19番8号	☎052(962)5331(代)
〃	金　沢サービスセンター	〒920	金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル	☎0762(22)0501(代)
〃	大　阪サービスセンター	〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎ 06(271)7996(代)
〃	広　島サービスセンター	〒730	広島市中区大手町3丁目7番2号 大東京火災広島ビル	☎082(248)4321(代)
〃	福　岡サービスセンター	〒810	福岡市博多区中洲中島町3番8号	☎092(281)6868(代)
〃	お客様相談室	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地（土橋交差点交番並び）	☎03(3572)6479

※日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラム（新宿）は年中無休、ペンタックスフォーラム・大阪は日曜・祝日を休みます。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年４回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。
〒106 東京都港区西麻布３丁目24番20号
交通安全教育センター3F　☎03（3401）2187



旭光学工業株式会社
〒174 東京都板橋区前野町２丁目36番９号
ペンタックス販売株式会社
〒100 東京都千代田区永田町１丁目11番１号

56569

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

01–9410